

**第4次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた
「地域の福祉を話し合う市民会議」
報告書**

令和3年（2021年）3月

芦屋市福祉部地域福祉課

はじめに

令和2年（2020年）10月23日に、第4次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた市民会議がスタートしました。

市民会議の開催を通して、会議でのご意見やご提案を地域福祉計画に反映させていくスタイルは、第1次地域福祉計画の策定時から変わっていません。

第4次芦屋市地域福祉計画の策定を検討し始めた際、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、グループに分かれての話し合いを大切にしてきた会議の持ち方の再検討や、市民会議の開催自体を取りやめることも検討しましたが、今までの地域福祉活動で様々なつながった市民・団体をはじめ、公募に応募してくださった有志の方、関係機関の協力を得て、市民会議を開催することができました。改めて感謝申し上げます。

市民会議では日頃の生活や活動を通して感じる課題から、「居場所やつながりがあるまち」「あらゆる世代の人たちが地域活動に参加するまち」といった理想を実現するために、夢や将来について語り合いながら、できることなどをテーマに沿って話し合いました。

これまで開催してきた市民会議と比べて、回数、時間、参加人数を縮小しての実施となりましたが、それぞれのテーマで充実した話し合いを持つことができ、課題や活動への思いを共有することで、参加してくださった方がたには新たな気づきを得ることができたのではないかと思います。事務局にも多くの気づきがありました。

今後、第4次芦屋市地域福祉計画の策定に向け、市民会議での思い、ご意見、ご提案などを計画策定に向けた協議の場である検討チームにも反映し、誰もが心地よく暮らせる共生のまちづくりに向けて取り組んでまいります。

令和3年（2021年）3月

「地域の福祉を話し合う市民会議」事務局

目 次

地域の福祉を話し合う市民会議の経過	1
1 市民会議の目的	1
2 市民会議の構成	1
3 市民会議のテーマ	1
4 市民会議における心構え	1
5 市民会議の開催	2
6 計画策定に向けた市民会議での見通し	2
7 市民会議終了後の計画策定の流れ	3
市民会議でのグループワーク	5
1 第1回市民会議	5
2 第2回市民会議	7
3 第3回市民会議	11
4 市民会議の総括	13
資料 ニュースレター	15



地域の福祉を話し合う市民会議の報告

1 市民会議の目的

- ① 現在、地域の福祉活動等に参加している住民同士が、日頃感じている生活課題や活動の成果、活動をする上での問題を共有し、未来に向けた理想の姿や課題解決に向けた取組を考え、第4次地域福祉計画に反映する。
- ② 市民会議への参加者をはじめとし、地域福祉に関わる活動者の輪を広げる。

当初の地域福祉計画策定時から、まずは市民会議を開催し、多くの市民や関係機関に参加していただくことで、よりよい芦屋市を目指して、やってみたい活動やあったらいいと思う取組などについて話し合ってきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、市民会議の開催が難しい状況にありましたが、これまでよりも参加人数と回数を減らし、1回あたりの開催時間も短縮することで何とか実現することができました。

実行性の高い計画づくりにつないでいきたい思いの下、限られた時間で課題の共有や具体的な取組の提案についての協議を充実させること、また、参加者同士の交流を通して地域活動の輪を少しずつでも広げていくことを大きな目的としました。

2 市民会議の構成

- ① 地域発信型ネットワークに関わっている市民
- ② 地域福祉アクションプログラム推進協議会に関わっている市民
- ③ 公募市民
- ④ 関係機関の職員
- ⑤ 事務局（芦屋市社会福祉協議会・芦屋市福祉部地域福祉課）

前回の市民会議のメンバーと同じ構成にしました。

3 市民会議のテーマ

- ① 世代・属性を超えたつながりや居場所づくりについて考えよう
- ② 地域からの孤立をなくすための地域づくりを考えよう
- ③ 災害に負けない地域づくりを考えよう
- ④ 地域活動への参加者や担い手を広げよう



話し合いのテーマは、市民委員を対象に事前アンケートを実施して決定しました。

4 市民会議における心構え

- ① 参加者同士がお互いの話を聞くこと
- ② 出てきた意見は否定せず尊重し、気持ちよく過ごすこと

難しく考えず、テーマに沿って日々の活動で感じていることを話し合うこととしました。

5 市民会議の開催

事務局や関係機関がサポートしてスムーズに会議を進行できるよう、事前に「ファシリテーター（中立的な会議の進行役）の研修」を実施して、市民会議に臨みました。

3グループに分かれグループワークを行い、毎回テーマに沿って話し合った結果をグループの代表者に発表していただきました。

発表を通して、参加者は各グループでの様々な意見や提案内容を共有することができました。

回	日時	会場	内容	参加者数
第1回	令和2年（2020年） 10月23日（金） 午後2時～4時	保健福祉センター 3階多目的ホール	○芦屋市の現状把握 ○会議の進め方の共有 ○自己紹介 ○テーマ 「世代・属性を超えたつながりや居場所づくりについて考えよう」	36名
第2回	令和2年（2020年） 11月10日（火） 午後2時～4時15分	保健福祉センター 3階多目的ホール	○オリエンテーション ○テーマ1 「地域からの孤立をなくすための地域づくりを考えよう」 ○テーマ2 「災害に負けない地域づくりを考えよう」	36名
第3回	令和2年（2020年） 12月5日（土） 午前10時～正午	市役所東館3階 大会議室	○オリエンテーション ○前回までのレビュー ○テーマ 「地域活動への参加者や担い手を広げよう」	31名

6 計画策定に向けた市民会議での見通し

市民会議の検討結果は、計画策定に向けた「検討チーム」での協議につなげていくことになりました。今後は、市民会議での意見や提案を検討チームへと引継ぎ、理想とする芦屋市に近づくことができるよう計画策定を進めていきます。

今回は過去の実施方法とは違い、テーマごとにグループ分けを行い、同じグループメンバーで協議を重ねることはしていないため、具体的な実行案の提案には至りませんでした。毎回異なるテーマを取り上げて話し合いをしたことで様々な意見が出たことや、共通している課題なども共有できたことが成果でした。

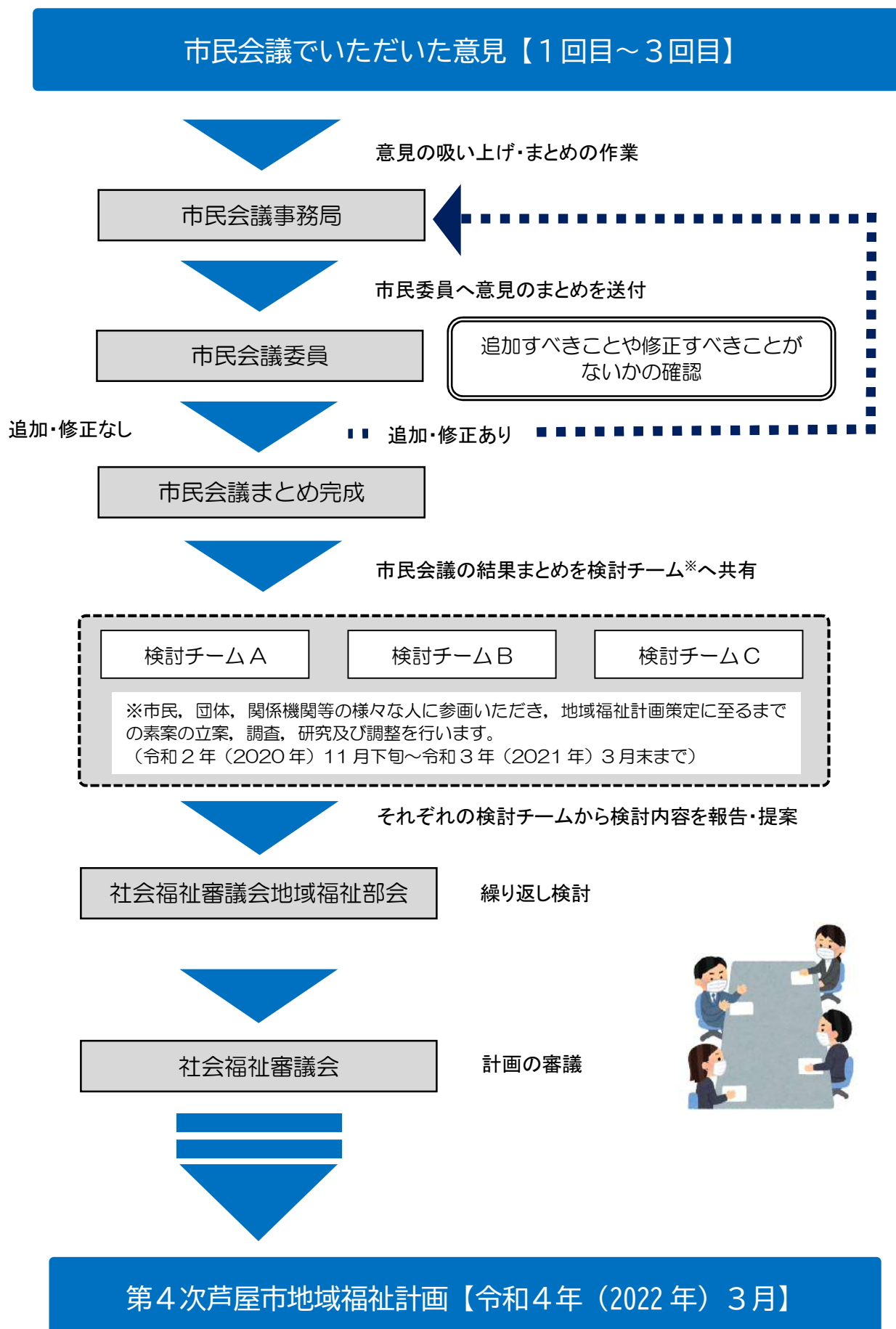
なお、検討チームとは、計画策定を担う社会福祉審議会地域福祉部会の下部組織で、地域福祉計画策定に至るまでの素案の立案、調査、研究及び調整のために設置された協議体のことです。

検討チームで取り扱うテーマ

- ① 市民参加による行政・専門職との協働活動の充実について
- ② 重層的な支援体制整備に向けた既存事業や体制の見直しについて
- ③ 多様な主体の参加につながるまちづくりの仕組みについて



7 市民会議終了後の計画策定の流れ

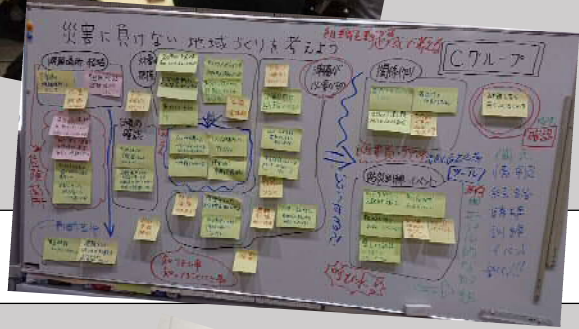


◆◆会議中の様子◆◆

第1回市民会議



第2回市民会議



第3回市民会議



市民会議でのグループワーク

1 第1回市民会議 令和2年(2020年)10月23日 保健福祉センター

テーマ：世代・属性を超えたつながりや居場所づくりについて考えよう

(1) 理想の居場所・つながりについて


キーワード	「理想の居場所・つながり」で欲しい、または必要な「もの・こと・ひと」
●居場所	<ul style="list-style-type: none"> 各町に居場所があると嬉しい 男性も気軽に集まれる場所 スーパーやコンビニのように気軽に行ける場所 いつでも誰かがいる場所 学校帰りに立ち寄れる場所 はしゃいでも怒られない場所 安価でおいしい食事ができる場所 いつでも行って話ができる場所
●有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用した話ができる場所 普段の集まる場所としての福祉避難所
●カフェ	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人でも行けるカフェ 近所に自宅でやっているようなカフェ
●交流	<ul style="list-style-type: none"> 多世代や障がいのある人と交流できる場所
●つながり	<ul style="list-style-type: none"> 男性同士や支援者同士でつながれる場所 趣味を通してつながりたい
●公園	<ul style="list-style-type: none"> 自然が感じられる公園 子どもが遊べる公園 公園を活用したイベント
●その他	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋がひとつになれるような、全市的な大きなイベント 近所に子どもを預けられる環境

(2) 現状と課題

キーワード	現状と課題
●居場所	<ul style="list-style-type: none"> 集える場所が少ない、足りない、場所代がかかる 子どもの遊べる場所が少ない、外で遊ぶ姿をあまり見なくなった 学校に行けない子どもの居場所がない 男性がつながれる場所が少ない
●近所づきあい	<ul style="list-style-type: none"> 隣近所の人顔がわからず、挨拶もしない 人間関係が希薄
●環境	<ul style="list-style-type: none"> 行いの悪い中学生・高校生に注意できない雰囲気がある 個人情報保護が邪魔をして何かとつながりにくくなった 若者や定年後の男性のひきこもり(行くところがない) 知らない人から声をかけられたら、逃げろと教えられている コロナ禍で人と接する活動ができない、いつまで続くのか不安
●情報関係	<ul style="list-style-type: none"> 情報をくれる人に出会わなければ、情報が手に入らない 高齢者にとってオンラインなどは気軽に使えるものではない
●参加	<ul style="list-style-type: none"> イベントに参加する人が少なくなった(昔はもっと人が集まっていた) 参加する人も運営する人も、毎回同じ人ばかり



(3) 今後の取組アイデア

キーワード	できること・できそうなこと
●情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がスマホを使えるよう、教える人が必要 ・スマホの使い方を教えることがきっかけとなり、つながりを広げていける ・情報難民をなくすための何かしらの取組が必要 ・外国人が困らないための相談コーナーが必要
●声掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人たちが1日1回声を掛け合う関係をつくる ・いつもイベントに参加しない人へも、声を掛けてみるのが大切
●イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントで集うことから始める ・花火や餅つきなどの伝統イベントは世代を超えて人気で人が集まってくる ・趣味や経験など、皆が特技を教え合っの世代間交流が良い ・多世代交流は、お祭りなどをきっかけに始まる（まずはきっかけをつくる）
●子ども・若者にアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生・高校生によるまちづくり会議の様な場を設定し、まずは地域に興味を持ってもらう ・子どもが動けば全世代が動くので、子どもと高齢者とが接する機会を増やす
●居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所を日ごろの居場所として使えないか ・認知症の人でもオープンに入れる居場所があればいい ・ここに行けば何かがある、といった居場所があればいい ・近所の公園の活用（ラジオ体操で元気に） 
●実践している取組	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の炊き出しは人気で、子どもから大人まで人が集まるよいきっかけになっている ・男性向けの居場所をつくろうとしている ・バザーなどをして、果物を仕入れてみたりしたところ好評だった

◆◆第1回市民会議の様子◆◆



第1回市民会議プログラム

- 1 開会のあいさつ
- 2 芦屋市の現状について
- 3 進め方についての説明
- 4 自己紹介
- 5 グループワーク
 - ・ワークショップ
 - ・まとめ作業
- 6 発表
- 7 総括
- 8 事務連絡
- 9 閉会

2 第2回市民会議 令和2年(2020年)11月10日 保健福祉センター

テーマ1：地域からの孤立をなくすための地域づくりを考えよう

(1) 孤立しがちな人とは？

- ・自分からはSOSが出せない人
- ・高齢者、単身者、両親が共働きの子ども、障がいのある人
- ・団体行動が苦手な人、周囲からの支援を拒否する人
- ・パートナー等を亡くされて1人になった人
- ・出産後で外部との接触が減った人
- ・子育てを終えた人(子どもを通じてのつながりが切れる)
- ・1人暮らしの男性
- ・退職後に目標がない人や働いているときに近所や地域との接点を持たなかった人
- ・体調不良で今までのような活動ができなくなった人




(2) 現状と課題

キーワード	現状と課題
●つながりの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶しない人がいる ・家が隣同士なのに顔を知らない、マンション内のつながりが薄い ・地域についての話題や会話が減っている ・自治会や老人会等に入っていない人が多い ・若いから一人でも問題ないと思っている人がいる ・年を重ねて所属するところなくなることで、地域や組織から疎遠になる ・自分が動かないと周りは気づいてくれない
●ひきこもり	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりや不登校の人への対応が難しい ・家の中でも孤立し、家族とも顔を合わせない人がいる ・認知症があると、自信がなくなり会話が消極的になりがち ・高齢になると階段がしんどい等の理由で、外出がままならない
●情報	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な人に必要な情報が提供できていない、個人情報への壁がある





(3) 今後の取組アイデア

キーワード	できること・できそうなこと
●居場所・行く場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも行ける場所が必要 ・子どもたちに、「逃げ場」ではなく「行き場」を用意する ・コンビニなどを参考に、気軽に行ける場所づくり ・敷居の低いイベントの実施、集える場の設置 ・地域において、テーマ性のある食堂やカフェなどを地道に開催する ・ここに行けば何かがある、といった居場所の創出

キーワード	できること・できそうなこと
●情報を得る・伝える・共有する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に関心を持ち、情報交換できる知り合いをつくる ・人が集まるイベントに行くと情報を得られることがある
●挨拶・顔を合わせる	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら声を掛けて近所の方に挨拶をするようにする ・散歩を通してつながる（毎日顔を合わせるので知り合うことができる） ・回覧板を回す際には、ポストインではなく顔を合わせるようにする ・声を掛けてくれる人がいれば、産後うつは乗り越えられる
●催し・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションごとにお茶会や親睦会を開催する ・気軽に参加できる機会（清掃活動など）があれば、ゆるやかにつながれる ・退職した人など時間に余裕がある高齢者に先生になってもらい、寺子屋のようなイベントを定期開催できるといい ・外出してもらえそうな仕掛け（イベントなど）が必要 ・人がつながるためには、楽しいことをしないとイケない
●関係機関・専門機関につなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる人を地域包括ケアシステムにつなげていきたい ・気になる人を関係機関へつなぐ仕組みがあればいい ・民生委員や自治会長などが専門機関へつなぐキーマンだと思う 
●組織づくり・人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある組織を活用できるよう考えることが必要 ・学校に専門家（スクールソーシャルワーカー）を増やせないか ・世話好きやお節介な人が増えるといい ・したいこと・やるべきこと（役割）があれば外に出る
●仕掛けづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は病院通いしている人が多いので、病院に何か仕掛けができるといい ・人は必ずスーパーマーケットには行くので、何か仕掛けができるといい

テーマ2：災害に負けない地域づくりを考えよう

(1) 現状と課題

キーワード	現状と課題
●情報の伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線が聞こえない、聞き取れない ・周囲との情報共有が不安（誰が避難できているか、支援は必要か） ・在宅避難などの情報が行き渡っていないのではないかと ・災害時にどこに避難したらいいのかわからない、情報が的確に伝わってこない ・緊急・災害時要援護者台帳について、全然知らない人がいる ・支援を必要とする人がいても、近所にそのような人がいることを知らない 
●避難行動要支援	<ul style="list-style-type: none"> ・いざという時、自治会が支援のために動いてくれるかどうか分からない ・災害時に不在だと、既に避難したのか単に留守なのか分からない ・災害に対するみんなの意識が、どれだけあるのか分からない ・日中家にいる高齢者、障がいのある人、認知症の人への災害時の声掛け
●防災意識	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練に出てこない人ほど助けが必要な場合がある ・家族間での防災に関する話し合いができていない 

キーワード	現状と課題
●防災意識	<ul style="list-style-type: none"> 安全な避難経路，近所の危険な場所（ブロック塀など）の把握がない 防災マップが分かりにくく，どこに避難したらいいのか分からない 防災倉庫の場所も中身も使い方も知らない（防災情報の周知不足）
●整備関係	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化が進んでおらず，災害時のスムーズな避難が困難 インフラの老朽化で避難の途中で道路陥没等の恐れがあるのではないか 福祉避難所が少ない
●防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の内容を地域で共有できていない
●避難所・避難行動	<ul style="list-style-type: none"> 潮芦屋地区の人たちは，豪雨や台風の時にあゆみ橋を渡れない（孤島） 指定の避難場所に逃げる必要があるのか不明（マンションの上なら助かるのでは） 子どもと離れている時間に災害が起きたら，子どもだけできちんと逃げられるか心配 避難所が遠くて行けない（近所になく，指定されている避難所は遠い）
●新型コロナウイルスの影響	<ul style="list-style-type: none"> 市からのコロナ情報が少なく，いざという時どうなるのかが分からない コロナの影響で人と接することができず，情報交換できない コロナ禍ではみんなが避難所に行ってもいいのかが分からない 障がいのある人が濃厚接触者となった場合，受け入れ可能な病院があるのかわからない
●その他	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋市は縦に長く，地域によって災害発生の可能性が異なる 自主防災組織が高齢化している



（２）今後の取組アイデア

キーワード	できること・できそうなこと
●ご近所同士の関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 情報を隣近所へ伝えられるような関係性をつくる 挨拶などによる近所づきあい，きずなを深め，ともに助け合う関係を築く 10世帯ほどの小単位で班を作っておき，防災活動，情報発信，避難の際の誘導で声をかけるなど，支援の役割をそれぞれが把握しておく 隣の人の顔が分かっている，困っている人がいるということ把握しておかないといけない 若宮町を具体例に「助け隊」の援助体制を構築していければいい
●情報を得る・伝える	<ul style="list-style-type: none"> スマホを活用できるようにする（高齢者が心配） スマホの勉強会をする 情報・防災ラジオの普及
●防災学習	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座や学習会の実施 どのレベルで避難するのかなど，学習の機会があればいい 専門家を呼んで勉強会をするのはどうか（お茶会などで楽しく）

キーワード	できること・できそうなこと
●防災訓練・催し・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアごとの避難訓練を色々工夫して実施する（ゲーム感覚で楽しくする、スタンプラリーなど子どもが喜ぶ内容にするなど） ・楽しみながら避難訓練できる工夫が必要（ハイキングの要素を入れる、クイズと一緒に実施するなど） ・防災のイベントであれば、どんな世代の人も誘える ・年に1回ではなく、同じ内容の訓練を年に数回実施（いずれかに参加可能） ・1人での避難に不安がある人に事情を説明してもらい、訓練時に実践してみることが必要 ・担い手になる中高年の心を惹くようなイベントを実施する
●いざという時の備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の持ち出しバックなど、日頃から備える ・車いすの場合などは、個別で避難計画を策定しておく ・一軒家などの耐震性の向上を図る ・自治会において地域で救助班を決めるなど、防災台帳を活用する ・災害に備え、どこに、どのルートで避難するのか家族で話し合っておく ・避難所がわかりづらいため、普段の居場所として使用できるようにする ・防災ネットの普及や防災士の育成に力を入れ、災害に負けない意識づくりを実践していく必要がある
●避難支援対策	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者名簿の整備と同時に個人情報の搾取に対する対策が必要 ・避難の目印となる（黄色いハンカチなど）仕組みをつくる



◆◆第2回市民会議の様子◆◆







第2回市民会議プログラム

- 1 オリエンテーション
- 2 グループワーク1
 - ・ワークショップ
 - ・まとめ作業
 - ・発表
- グループワーク2
 - ・ワークショップ
 - ・まとめ作業
 - ・発表
- 3 総括
- 4 事務連絡
- 5 閉会


3 第3回市民会議 令和2年（2020年）12月5日 市役所東館3階大会議室

テーマ：地域活動への参加者や担い手を広げよう

（1）「行きたくなる」地域活動を考える

キーワード	行きたくなる地域活動・イベントとは
●多世代交流	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちも一緒に町のパトロールや清掃活動 子どもから高齢者まで一緒に参加できるイベント みんなができるスポーツイベント 
●参加することで何かがある	<ul style="list-style-type: none"> 自分のためになるなど得られるものがあること（勉強になる） 自分の趣味に合っているイベントや活動 おしゃれなイベント 用事のついでや気軽な気持ちで行ける、短時間のイベントや活動 プレゼント（特に実用的なもの）や景品がもらえるイベント
●音楽・コンサート	<ul style="list-style-type: none"> 音楽とスポーツなど文化的要素のあるイベント 小規模コンサート 
●食べる・買う	<ul style="list-style-type: none"> 餅つきなど食べることが伴うイベント フリーマーケットや産地直送のものが買えるイベント 
●いつものイベント	<ul style="list-style-type: none"> 親睦会や飲食会 防災訓練のような毎年馴染みのイベント さくらまつりや秋まつり 子ども向けのイベント 公園での体操 

（2）現状と課題

キーワード	現状と課題
●参加・関心	<ul style="list-style-type: none"> いつも同じ参加者 活動への参加意識が低い 積極的に地域福祉に参加しなくても生きていける 男性は1人では地域に出ない 手伝いはするが、企画はしたくない人が若い人に多い 学生は地域活動よりアルバイトを重視する
●活気	<ul style="list-style-type: none"> 自分の趣味には熱意があるが、地域活動への情熱が不足している 井戸端会議のようなものを芦屋では見かけなくなった 商店街の元気がない 主催者が高齢化している 
●孤立感	<ul style="list-style-type: none"> 付き合いの範囲が狭い 孤立している（社会とつながりがない）人の参加が難しい

(3) 地域活動に必要なもの・不要なもの



▶必要なもの

- ・笑いがあること
- ・やりがいがあること
- ・目的があること
- ・参加型であること
- ・きっかけ
- ・楽しめること
- ・誰かと友だちになれる要素
- ・公民の連携
- ・企業（お店）などの協力

▶不要なもの

- ・面倒な書類の手続き
- ・参加費用
- ・スポンサー色や売り込みの強いイベント

(4) 今後の取組アイデア

キーワード	できること・できそうなこと
●地域活動の魅力を伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・活動していると感謝される、知り合いが増える ・人と人がつながればいい社会になる ・子どもと接することが多くなる ・満足感や達成感がある ・普段では行けないところに行ける ・名前や顔を覚えてもらうと、孤立も防ぐことができる ・新たな気づきがある 
●人材の発掘	<ul style="list-style-type: none"> ・引っ張ってくれるリーダー的な人がいることが必要 ・地域活動に熱意のある核になる人が必要 ・担い手のやりがいを見出すことが必要 
●情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・個人にあったイベントを紹介する（ビラの配布も効果的）
●参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・企業（働く人）に福祉マインドを伝えていく ・領域やジャンルを超えて協力（協賛）してもらう ・みんなそれぞれに持つ好奇心を、地域活動に結びつけることができればいい
●その他	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人への福祉教育になる ・商店街の店先にいる人みたいに、いつも誰かがいることが大切 ・コンビニに居場所の可能性があるのではないか

◆◆第3回市民会議の様子◆◆



第3回市民会議プログラム

- 1 オリエンテーション
- 2 グループワーク
 - ・ワークショップ
 - ・まとめ作業
- 3 発表
- 4 振り返り
- 5 事務連絡
- 6 閉会

4 市民会議の総括

3回にわたって開催してきた市民会議での話し合いの意見をまとめました。検討のテーマは違っても、似たような課題や解決策の意見がありました。

福祉学習

- ◆中学生・高校生によるまちづくり会議の様な場の設定を行い、まずは地域に興味を持ってもらうのはどうか
- ◆若い人への福祉教育が必要

情報発信 周知・啓発

- ◆スマホの使い方を教えることがきっかけとなり、つながりを広げていけるのではないかと（高齢者等へのスマホ勉強会には教える人も必要）
- ◆個人に合うイベントの紹介ができればいい（ピラの配布も効果的）
- ◆自治会等が持つ地域の人々のリストをみんなで共有できるといいのではないかと
- ◆情報交換ができる知り合いやイベントなどへの参加を通じて情報を得ることができる（自ら動く）
- ◆情報難民をなくすための何らかの取組や外国人のための相談コーナーが必要

地域 コミュニティ

【声掛け・挨拶】

- ◆近所の人たちが1日1回声を掛け合う関係をつくる必要がある
- ◆自ら挨拶をすることや、イベントの声掛けなどをやっていくことが大事
- ◆散歩など毎日のルーティンで顔を知ってもらうようにしてはどうか
- ◆回覧板を回す際には、ポストインではなく直接顔を合わせるようにするといいいのではないかと
- ◆声を掛け合う関係性を築きやすくするため、お節介な人がもっともって増えればいい

【居場所・行き場所】

- ◆ここに行けば何かがあり、敷居が低く、誰でも行ける場所（「逃げ場」でなく「行き場」）が必要
- ◆商店街の店先にいる人みたいに、いつもそこにいてくれて、安心できることが大切
- ◆近所の公園、福祉避難所（普段からの居場所であれば避難所へ迷わず行ける）、コンビニなどを居場所として活用してはどうか
- ◆地域でやっている食堂、カフェなどを地道に続けることが大切
- ◆多くの人が買い物に立ち寄るスーパーマーケットや高齢者が多く通う病院への仕掛けづくりができないか

【イベントの開催】

- ◆花火や餅つきなどの伝統イベントは世代を超えて人気で人が集まり、多世代交流のきっかけとなるのではないかと（子どもが動けば全世代が動く）
- ◆趣味や経験など皆が特技を教え合ったり、退職後で時間のある高齢者が先生となり、寺子屋のようなイベントを定期開催したりするなどの世代間交流をしてはどうか
- ◆マンションごとにお茶会、親睦会を開催してはどうか
- ◆担い手になる中高年の心を引くようなイベントにする必要がある
- ◆人がつながるためには、楽しいことをしないといけないと思う

【関係機関・専門機関につなぐ】

- ◆気になる人を関係機関へつなぐ仕組みがあればいい
- ◆民生委員・児童委員や自治会長などが専門機関へつなぐキーマンだと思う

【人材発掘】

- ◆引っ張ってくれるリーダー的な人、地域活動に熱意のある核になる人がいることが必要
- ◆担い手のやりがいを見出すことや、地域活動の魅力を伝えることが必要

災害時
支援

【ご近所同士の関係づくり】

- ◆隣人の顔が分かっていて、情報を隣近所へ伝えられるような関係性、きずなを深め、ともに助け合う関係を築くことが必要
- ◆10世帯ほどの小単位の班を作っておき、防災活動、情報発信、避難の際の誘導で声をかけるなど、支援の役割をそれぞれが把握しておく取組はどうか
- ◆若宮町を具体例に「助け隊」の援助体制を構築してはどうか
- ◆1人での避難に不安がある人に事情を説明いただき、訓練時に実践してみるといいのではないか

【防災学習】

- ◆出前防災の企画、どのレベルで避難するのかなど学習の機会が必要

【防災訓練・催し・イベント】

- ◆エリアごとの避難訓練を色々な場所で、年に複数回実施する（ゲーム、スタンプラリー形式など楽しく工夫する必要あり）といいのではないか
- ◆防災のイベントは世代を超えて参加があるので、交流するにも効果的

【いざという時の備え】

- ◆それぞれが災害時の持ち出しバックなど、日頃から備える必要がある
- ◆災害が起こった場合に備え、どこに、どのルートで避難するかを家族で話し合っておく必要がある
- ◆一軒家など、耐震性の向上を図るべき
- ◆車いすの場合などは、個別で避難計画を策定する必要がある
- ◆自治会において地域で救助班を決めるなど、防災台帳を活用する取組を広げられないか
- ◆避難の目印となる（黄色いハンカチなど）仕組みがあると、実際の支援時に役立つ
- ◆行政には防災ネットの普及や防災士の育成に力を入れ、災害に負けない意識づくりを実践してほしい
- ◆行政は要配慮者の名簿を整備していくべき

協働と
参加支援

- ◆地域の活動を広げていくために、企業（働く人）に福祉マインドを伝えていく必要がある
- ◆領域やジャンルを超えて企業等に協力（協賛）してもらえれば、地域の活動が広がる
- ◆みんながそれぞれに持つ好奇心を、地域の活動へ結びつけることができるといい
- ◆昔のような駄菓子屋や商店街に代わる居場所として、コンビニや量販店の可能性は探れないか
- ◆気軽に参加できる機会（清掃活動など）で、ゆるやかにつながることから始めてはどうか
- ◆社会との関係があまりない人たちにも、したいこと、やるべきことがあるといった役割があれば外に出るのではないか

第1回

日時・場所 令和2年（2020年）10月23日（金）午後2時～4時 保健福祉センター3階多目的ホール
 テーマ 世代・属性を超えたつながりや居場所づくりについて考えよう
 参加者 36名（内訳：市民委員15名 関係機関13名 事務局8名）

第2回

日時・場所 令和2年（2020年）11月10日（火）午後2時～4時15分 保健福祉センター3階多目的ホール
 テーマ1 地域からの孤立をなくすための地域づくりを考えよう
 テーマ2 災害に負けない地域づくりを考えよう
 参加者 36名（内訳：市民委員16名 関係機関10名 事務局10名）

第3回

日時・場所 令和2年（2020年）12月5日（土）午前10時～正午 芦屋市役所東館3階大会議室
 テーマ 地域活動への参加者や担い手を広げよう
 参加者 31名（内訳：市民委員14名 関係機関8名 事務局9名）

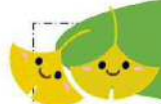


第4次芦屋市地域福祉計画策定に係る



「地域の福祉を話し合う市民会議」第1回目の振り返り

令和2年10月23日(金)芦屋市保健福祉センター3階多目的ホール



事務局より

芦屋市では、地域福祉計画を策定する際に必ず市民会議を開催し、市民の皆さんが日ごろの活動を通して感じていることや、課題やつづやきを拾い、地域福祉計画に反映できるよう取り組んできました。

地域福祉計画は、芦屋市で生活している皆さんが、より安心・安全で心地よく暮らせるまちだと感じるために、誰が何をどうするべきなのかを考え策定しています。

地域福祉計画の主役は、行政ではなく実際に芦屋市に住んでいる皆さんと芦屋市に関わっている人々であり、皆さんの住む芦屋市をちょっとでもよくしたいという思いが地域福祉計画の土台となっていきます。

芦屋市をよりよいまちにするために、行政がしなくてはならないことは山ほどあるでしょう。行政と一緒に頑張って市民会議の運営をしている社会福祉協議会の役割もたくさんあるでしょう。しかし他の計画とは違い、地域福祉計画には皆さんにも役割があると記されています。(計画の大元である社会福祉法に明記あり)

一人ひとりの力は小さいですが、多くの人々が小さな行動を起こすことで、芦屋市はどんどん変わっていきます。皆さんができると思うことから地域での活動に参加してみてください。そして少しずつではありますが、一緒に理想の芦屋を創っていきましょう。

市民会議はあと2回、よろしくお願いたします。

事務局:芦屋市福祉部地域福祉課 阿南・梅林



参加してくれた専門機関をご紹介します

日ごろ、高齢者、障がいのある人、何か地域活動をするときの相談などをお聞きし、ニーズに合わせて支援することで芦屋市の安全・安心な暮らしを支えてくださっている皆さんです。既に顔見知りの方もおられたかもしれません。

芦屋市の未来を話し合い、考えるため、皆さんと一緒に参加しておられます。ぜひこの機会に仲良くなっていただければと思います。

市民委員の参加はもちろんですが、専門機関の皆さまの参加にも、事務局から改めて感謝申し上げます。

◆高齢者生活支援センター(東山手, 西山手, 精道, 潮見)

◆地域支え合い推進員

社会福祉法人 芦屋市社会福祉協議会

社会福祉法人 聖徳園

株式会社 アクティブライフ山芦屋

社会福祉法人 かんでん福祉事業団

社会福祉法人 きらくえん

◆芦屋市障がい者基幹相談支援センター



グループ分けの話

初回ということもあり、比較的近所同士が集まったほうが盛り上がるのでは?!という事務局の思いから、Aグループは山手の地域、Bグループは真ん中あたりの地域、Cグループは浜側の地域にお住いの方々に集まっていただきました。

次回も事務局でグループ分けをさせていただきますが、よりたくさんの人と顔見知りの関係になって輪を広げていただきたい、というお節的な発想によるものですので、何とぞご了承ください。



◆テーマ「世代・属性を超えたつながりや、居場所づくりについて考えよう」◆



グループA

短い時間での話し合いでしたが、つながりを連想できる意見交換となりました。
①どんなつながりや居場所がほしい？②そのために何がいる？③私たちにできることを2人1組で意見を出し合いました。
「気軽に」「近場で」ということや「自宅カフェ」「オンライン」といった居場所の発想や「老若男女」「男性たち」のつながりがほしいといった意見があり、そのためには「リーダー」と「お金」と「場所」が必要だという意見がありました。
私たちにできることは？という発想から、近所の方への声掛けやICTでの情報発信などのお手伝いができる、といった声があがりました。

～ファシリテーター 針山さん談～

話し合いがどんな結果になったかよりも、話し合いの過程が大事だと思います。

グループB

人との関係が希薄になる中でも、いろいろな人が集まれる居場所が必要だという意見があり、みんなで真剣に話し合いが展開されました。
時代背景を考え、密になりにくい「公園を生かした居場所づくり」や年配の方だけではなく「不登校児や子どもたちの居場所」、「いろいろな人が集えるような居場所」を私たちが今できることの中で工夫して取り組みたいという意見がありました。
「駄菓子屋の様な話を聞いてくれるおばちゃんがいるところもいい」や「目的がある居場所とほっこりする居場所の2種類があり、男性にとっては、目的がある居場所の方が行きやすい」など、なるほどと思われる意見もありました。

～ファシリテーター 小阪さん談～

あらゆる世代に居場所は必要だという思いを、みんなで共有できました。



グループC



いろいろな立場から居場所やつながりについて、思いが次々と共有されました。
「いざ情報を知りたいと思ったときに情報が入手できなくて困った」
「情報弱者への情報の伝達方法を考えなければ・・・」
「大人がおせっかいを焼けない、子どもをしかることができない」など、課題は山積み。
・・・しかし、「芦屋市の特徴である整備された公園を活用しては？」
「子どもはみんなを笑顔にできる。子どもを中心に考えるのもよい」
「中高生がまちづくりについて話す機会があるといい」など、比較的若い世代に着目した意見交換が印象的でした。

～ファシリテーター 宮平さん談～

子どもや中高生の参加による、世代をこえたつながりづくりが必要と感じました。

<次回テーマ>

◆地域からの孤立をなくすための地域づくりを考えよう

◆災害に負けない地域づくりを考えよう

日時 11月10日(火) 14:00～16:15(多少前後あり)

場所 保健福祉センター 3階 多目的ホール(1回目と同じ)

会場でお待ちしております



第4次芦屋市地域福祉計画策定に係る 「地域の福祉を話し合う市民会議」第2回目の振り返り

事務局より

令和2年11月10日(火)芦屋市保健福祉センター3階多目的ホール

第2回市民会議へのご参加、ありがとうございました。
今回は、2つのテーマを話し合っていました。非常にタイ

トなスケジュールでしたが、皆さんの日ごろの活動を通して感じていることを共有していただくことはできましたか？皆さんが熱心に話し合っている姿を拝見し、事務局として、よりよい芦屋のまちづくりに向けて、ぜひ皆さんと協働で何かを始めることができたらなと思いました。

市民会議は次が最後となります。新型コロナウイルスの感染症はより一層注意が必要な状況が続いており、また、日中との寒暖差が大きい日も続いておりますが、皆さまが元気にお越しくさるよう、感染予防対策を万全にしてお待ちしております。次回も芦屋の未来について楽しく熱く語り合しましょう。

事務局：芦屋市福祉部地域福祉課 阿南・梅林

◆テーマ1 「地域からの孤立をなくすための地域づくりを考えよう」◆



グループA

子どもから年配の方まで幅広い世代の孤立について意見交換をしました。
芦屋市の現状や相談窓口が少ないといった課題を踏まえて、5年後までに取り組むべきことはなんだろうかを中心に考えました。

個人情報という壁がある中で、情報の有効活用を行い、関係機関へつなげること、地域の祭りやイベントを開催しつながりをつくること、わかりやすい集まりの場を確保すること、自ら声をかけてつながりを広げていくことで孤立を防げるのではないか、などといった意見をいただきました。

グループB

偶然にもBグループでは男性の市民委員の方が多く、男性は周田とのつながりに疎遠になりがちである反面、趣味を通じたつながりが生まれやすいといった自身の経験を踏まえた意見がありました。

あいさつや気軽に顔を合わせる場など、日ごろからの緩やかなつながりがあることが、課題の解決につながるという意見が多くみられました。

また、多くの情報がある中で、必要な人に必要な量の情報が届く仕組みづくりが必要であるなど、情報のあり方についても真剣な意見交換が行われました。



グループC

まず、孤立のイメージをみんなで考えました。家庭内でも孤立がある、退職後にやりがいがなく孤立してしまう、見つけてほしいと思っているが、自らSOSが出せないなど、孤立の状況について共有しました。

イベントに参加すれば、そこで何かしらの情報が得られるので、まずイベントを企画してはどうかといった意見や、高齢者であれば通院のために外出し、たいていの方は日々スーパーには行くことから、病院や買い物など生活を通じて、気軽につながりをつくる仕掛けを考えてはどうかといったアイデアも出ました。また、安心して利用できる居場所についての意見や、近所と挨拶をすることがつながりをつくるなど、1回目のテーマにも通じる意見が出されました。



◆テーマ2 「災害に負けない地域づくりを考えよう」◆

グループA



災害時と平常時について考え、新型コロナウイルス感染症も含めて、情報が少ないという意見やもっと近くに避難所がほしい、避難行動時のバリアフリーなど課題を踏まえた意見を出し合いました。近隣の人との付き合いや、避難したことが分かる目印になるような黄色いハンカチのアイデアなどの意見がありました。

また、情報弱者に対する支援や、平常時からの心構えなど防災意識の構築が必要であり、防災訓練等も大規模ではなく、小さな範囲の地区ごとで行うことにより、より効果の高い取組になるのではという意見や、いざというときに担い手となる可能性が高い中高年に対するイベントを開催することも必要ではないかという意見がありました。



グループB

阪神淡路大震災の経験を踏まえた、意見交換をしました。
芦屋市は南北に長く、地域によって、起こりうる災害の種類が違うこと、有事の際は電気・ガス・水道も含め情報が入手しにくいといった課題が挙げられました。
そのことに備えるためにも、小規模な単位での防災意識の醸成が必要であり、あいさつなどを通じた日ごろからの近所づきあいが非常に大切であるといった意見に、みんなで共感しました。
また、若宮町を具体例に防災意識の高い地区の活動を広めていくといったより実践的な取組についての意見がありました。



グループC



まず、避難経路が安全かどうか分からない、親と離れている時間帯に災害が起こったら、子どもたちだけで避難できるか心配、といった災害に対する準備不足の現状があることを互いに共有しました。

防災訓練は世代を超えて参加がある取組だということで、より多くの地元住民に参加してもらえるような楽しい工夫が必要だといった意見や、前もって家族で災害時のことを話し合っておいたり、避難支援が必要な人はどのような支援が必要かといったことを避難訓練時に周りに知らせておいたりするなど、自助の意識を高めることについても必要だといった意見も出ていました。



次回が最後ということもあり、思う存分お話しいただきたいと思います。
今回、ニュースレターに過去の市民意識調査をまとめた資料を同封しています。アンケートに回答して下さった市民のみなさんが感じている地域活動に対しての思いや現状についてお目通しいただき、最後のグループワークに臨んでいただけると嬉しいです。

<次回テーマ>

◆地域活動への参加者や担い手を広げよう◆

日時 12月5日(土) 10:00~12:15(多少前後あり)
場所 芦屋市役所東館3階 大会議室

※東館の正面玄関は閉鎖していますので、別紙を参照の上お越しください



第4次芦屋市地域福祉計画策定に係る

「地域の福祉を話し合う市民会議」第3回目の振り返り



令和2年12月5日(土)市役所東館3階大会議室

事務局より

10月23日に第1回がスタートした「地域の福祉を話し合う市民会議」も今回で3回目となり、最終回を迎えました。

今回は土曜日でしたが、14名の委員の皆さんにご参加いただき「地域活動への参加者や担い手を広げよう」をテーマに、3グループに分かれてご協議いただきました。最後は皆さんが前に出てきてくださり、一つひとつの思いを丁寧に発表されたことがとても印象深く、事務局にも多くの気づきがありました。

これまでの皆さんのご意見や思いを踏まえ、事務局として次期地域福祉計画の策定と、芦屋市が市民委員の皆さんの思う理想のまちに向かって地域福祉を推進していけるよう取り組んで参ります。皆さんとは何か共にできる楽しい機会をつくっていくことで、市民会議での思いを今後の地域活動へとつなぎ、広げていきたいと思えます。

ご参加いただきありがとうございました。是非またお会いしましょう♪♪♪



芦屋市福祉部地域福祉課 / 芦屋市社会福祉協議会スタッフ一同



◆テーマ「地域活動への参加者や担い手を広げよう」◆



男性2名、女性2名の計4名で、参加者側と担い手側からの立場での意見交換が行われ、双方の意見と課題が認識され、充実した話し合いになりました。

地域活動にはボランティアという意識を強く感じ、積極的に取り組む人が少ないことが、参加者や担い手が増えない1つの原因ではないか、という意見がありました。



企業に福祉のマインドを持ってもらい、福祉活動を行いながら仕事をする姿勢を企業側がアピールすれば、地域活動も活発になるのではないかと。しかし、福祉というとハードルが高くなるため、若い頃からの福祉に対する意識の醸成が必要だという話になりました。教育の現場に福祉ボランティアの精神を取り入れることで、より身近に地域福祉を感じることができるのではないかとこの意見等から、地域活動に対する考えを若い頃から形成していく環境が大切であるとまとまりました。

A

B

地域活動では、もちつきや祭りといった賑やかで幅広い世代の人が集まることができるイベントが魅力的との意見を皆で共有しました。

しかし、主催者側のメンバーの固定化や高齢化が課題になっていること、参加者を増やすには、何かの目玉やお土産があればというアイデアや学生の思いは地域活動よりアルバイトといった本音も出ました。

活動を主催する側への参加で得られることとして、満足感や充実感、普段できない経験をするに醍醐味がある、社会に認知されている実感を持つことができるといった意見が出され、「自分も楽しく、参加者も楽しい環境をつくる」という素敵なキャッチフレーズが生まれました。



まずは参加したくなるイベントについて意見を出し合いました。一緒に遊べる運動会や公園でラジオ体操などスポーツを通じたイベント、試食やもちつきなど食べ物を通じたイベントなどの意見が出されました。

そんなイベントに参加するためには、動機やきっかけが必要であり、自身のつながりを通して、参加に至った実体験を交えた意見がありました。

芦屋市民の中には、何か活動を起こしたいと考えている人は大勢いるはずなのに、その人たちを結びつける手段は永遠のテーマのように感じる…という意見がありました。

若い人の意見も聞くと、新たな発見があるのではという意見も出ました。

C



アンケートより

参加した中で一番印象に残っている意見を教えてください

「自分も楽しく
参加者も楽しい」
環境づくり

地域に居場所
をつくる

必要な人に必要
な情報が届いて
いない

みんなつながり
を求めている

何かがしたい
と思っている



地域の福祉を話し合う 市民会議メンバー



市民委員
の皆さん

朝井 邦治さん 上野 康子さん 岡田 雅行さん 奥田 瑞枝さん
尾村 江里さん 香川 清和さん 川崎 俊子さん 北澤 みち子さん
鞍田 反省さん 齊藤 和子さん 田中 隆子さん 寺本 育代さん
中野 富枝さん 永田 侑大さん 中村 里恵子さん 平松 啓子さん
守上 聖子さん 山本 眞美代さん



ご参加いただきありがとうございました

ご協力いただいた関係機関の皆さん

東山手高齢者生活支援センター
加藤 由起輝さん
西山手高齢者生活支援センター
新島 加奈子さん
精道高齢者生活支援センター
針山 大輔さん 成宮 正浩さん
潮見高齢者生活支援センター
橋本 真弓さん 川西 里奈さん
障がい者基幹相談支援センター
三芳 学さん 松村 幸治さん

地域支え合い推進員 (生活支援コーディネーター)

社会福祉法人 芦屋市社会福祉協議会
小阪 明さん
社会福祉法人 聖徳園
あしや聖徳園 船寺 恵子さん
社会福祉法人 かんてん福祉事業団
エルホーム芦屋 三島 久美子さん
社会福祉法人 ぎらくえん
あしや喜楽苑 宮本 紘子さん 増原 統さん
株式会社 アクティブライフ
アクティブライフ山芦屋 藤本 亮さん

事務局 芦屋市社会福祉協議会／芦屋市福祉部地域福祉課
中山 裕雅 山岸 吉広 宮平 太 池原 恵子 寺岡 由記
山川 尚佳 吉川 里香 阿南 尚子 梅木 佳奈 梅林 健祐

「地域の福祉を話し合う市民会議」事務局：令和2年12月11日発行

第4次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた
「地域の福祉を話し合う市民会議」
報告書

令和3年（2021年）3月

発行 芦屋市

〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7番6号

TEL 0797-38-2153

FAX 0797-38-2160

ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/>

編集 芦屋市福祉部地域福祉課